

## 学校経営推進費 評価報告書（2年め）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立登美丘高等学校
取り組む課題	キャリア教育の充実（生徒の希望する進路の実現）
評価指標	1 学校教育自己診断における生徒の授業満足度及び家庭学習度の向上 2 国公立、難関私立、看護医療など、生徒の細やかな希望に沿う進学実績の向上
計画名	「Challenge & Hospitality」の実現 ⇒ オンライン授業 Pjt 「タブレット授業に挑戦・オンラインでの家庭学習時間にも寄り添うきめ細やかなホスピタリティの向上」

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1. 授業の充実と進路の実現</p> <p>(1) 「わかる授業」「学力がつく授業」「進路に結果を出す授業」に取り組む</p> <p>① 「着想・展開・発表する力」を育む取組みを進める。</p> <p>－アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた能動的な学習法を追求する。</p> <p>－発表の舞台を作る。（学級読書会、英語プレゼン大会、情報プレゼン発表など）</p> <p>(2) 進学実績の向上</p> <p>① 「授業・自学自習（≒週末課題）・講習」の一体化と充実を図る。</p> <p>② 「自学力」の育成—もっと学びたい生徒のための環境づくりに取り組む。</p> <p>③ 「国公立志望・看護医療（公務員）希望」—国公立進学希望者の進路を実現させるとともに生徒の細やかな希望に応える体制づくりを行う。</p> <p>2. 主体性・挑戦心と思いやり・気配りの精神の涵養</p> <p>(1) 「主体的・挑戦的に行動する心」を育成するとともに、「人を思いやることの大切さ」を実感させる。</p> <p>① 勉強と部活・行事の両立 —学習・生活習慣・多様性・挑戦心の育成。</p> <p>② 生徒会活動の自主運営 —学校祭等の自主企画・運営を行い、生徒に多様な集団活動運営で味わえる成就感、達成感を体験させる。</p>						
事業目標	<p>「令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境」に備え</p> <p>① 教員がタブレットを使用したICT授業及びオンラインで課題提供・課題サポート・授業推進する技能の習得・実践を行う。</p> <p>② 生徒がモバイル・PCで授業及び家庭学習を行い、希望する進路の獲得確率を上げる。これを実現することにより「授業満足度」「家庭学習度」を向上し、めざす進路獲得＝進学実績の向上を図った上で、中堅校の1人1台端末時代のモデルパターンを作る。</p>						
整備した 設備・物品	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">タブレット iPad mini</td> <td style="text-align: right;">32台</td> </tr> <tr> <td>プロジェクタ（特別教室）</td> <td style="text-align: right;">4台</td> </tr> <tr> <td>Wi-Fi アクセスポイント</td> <td style="text-align: right;">6拠点</td> </tr> </table>	タブレット iPad mini	32台	プロジェクタ（特別教室）	4台	Wi-Fi アクセスポイント	6拠点
タブレット iPad mini	32台						
プロジェクタ（特別教室）	4台						
Wi-Fi アクセスポイント	6拠点						
取組みの 主担・実施者	<p>主 担： オンライン授業委員会（教務部長（委員長）、首席、管理職、各学年からの代表者1名）</p> <p>実施者： 全教員</p>						
本年度の 取組内容	<p>1) オンライン教育に関する理念の設定</p> <p>「コンタクト」、「常に傍にいる」を登美丘オンライン教育の基本理念とする。</p> <p>① グループウェア、ICTを生かした機能的な校務運営に努める。</p>						

	<p>② 全教員が授業内容を配信できるようになる。</p> <p>2) まず探究において「ZOOMを活用したディベート」「ZOOMによるキャリア講演」等を開始する。短焦点プロジェクタを設置する。</p> <p>3) 全教員がタブレットを利用した授業を行えるよう、全教員がタブレットを所持する。</p> <p>4) 205の授業においてG Suiteを予習・復習に使用開始する。</p> <p>5) 第5波・6波に際し、Google Meetを利用して、授業風景を配信するための2台めのPCとしてタブレットの利用を促進する。</p>
<p><b>成果の検証方法 と評価指標</b></p>	<p>1 ・ 学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」の肯定率を 85%以上 (R2:84%)  ・ 学校教育自己診断（保護者）「1日1時間以上家庭で学習している」56% (R2:54%)</p> <p>2 共通テスト受験者 140名以上 (R2:139名) 国公立大学現役合格者数 12名 (R2:8名)  関関同立現役 50名 (R2:47名) 産近甲龍現役 150名 (R2:148名)</p>
<p><b>自己評価</b></p>	<p>1 ・ 学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」の肯定率…………… 84% …… (△)  ・ 学校教育自己診断（保護者）「1日1時間以上家庭で学習している」 57% …… (○)</p> <p>2 ・ 共通テスト受験者…………… 133名 …… (△)  ・ 国公立大学現役合格者数…………… 5名 …… (△)  ・ 関関同立現役合格者数…………… 66名 …… (○)  ・ 産近甲龍現役合格者数…………… 202名 …… (○)</p> <p>令和3年度は、タブレット iPad miniを導入し、1年生の英語の授業におけるプレゼンテーション大会、2年生の「生徒が参加する ZOOMによるキャリア講演」等を行うことができた。また、学園祭に向けた取組みにおいてもタブレットを活用した調べ学習等を行った。</p> <p>全教員がタブレットを利用して授業を行うとともにオンライン上で宿題を出すようになった。特別教室で行われる芸術科及び家庭科においても、日常的に ICT を利用した授業ができるようになるなど、授業における教員の ICT 活用が進んだ。</p>
<p><b>次年度に向けて</b></p>	<p>登美丘オンライン教育の基本理念のもと、「ZOOMを活用したディベート」等、探究をはじめとした多くの授業におけるタブレットの活用モデルを作る。</p> <p>全教員がタブレットを活用して授業を行い、オンライン上で宿題を出せるようになる。</p> <p>特別教室におけるプロジェクタを活用した授業の充実を図る。</p>